

第5回 全国海洋教育サミット

2月4日(日)、東京大学の安田講堂において「第5回 全国海洋教育サミット」が開催され、本市の海洋教育拠点となっている「みなと小学校」「天領小学校」「天の原小学校」の子どもたちが、これまでに学んだ海洋教育について発表しました。3校は、有明海をめぐる様々なテーマで学習を積み重ねており、全国から参加した関係者の方々から高い評価を得るとともに、「ユネスコスクールのまち おおむた」をアピールする機会となりました。今号では、3校の発表の様子を紹介します。

みなと小学校

みなと小学校は、これまでに学んだ有明海や三池港に関する発表を行いました。世界文化遺産「三池港」を中心にした100年先の大牟田の町について考え、大牟田の魅力を生かした「まちづくりプラン」を発信しました。



天の原小学校

天の原小学校は、有明海に注ぐ諏訪川の支流野間川についての学習の成果を発表しました。河川と生活との関わりについて触れるとともに、川を守ることが有明海を守ることにつながることを全国の学校にアピールしました。



天領小学校

天領小学校からは、古賀校長先生と子どもたちが、パネルディスカッションに登壇し、これまでの学習で、海に対する考え方が変わったことや、郷土の海、有明海を守ろうとする意識が高まったことなどを報告しました。



☆海洋教育のコンセプト～海と人との共生～
海に親しむ! 海を守る! 海を知る! 海を利用する!

福岡県立三池工業高等学校の実践

大牟田植木線の「クリーン作戦」で地域と繋がる

三池工業高等学校では、環境教育の一環として、通学路及び近辺道路の清掃・整備ボランティアを、「大牟田花街道プロジェクト」との連携のもと行っています。お世話になっている大牟田への感謝を胸に、1学期は3年生、2学期2年生、3学期1年生の延べ600人がクラスごとにゴミ袋と鎌と火ばさみを手に、ゴミを拾ったり草を取ったり枯葉を集めたりして、地域の方々と共に汗を流しています。ペットボトルやビン、タバコの吸い殻、傘、鉄板、時には家電製品などのゴミを目の前にして、考えさせられる場面もありました。

生徒たちは、環境美化活動を通じて、美化意識の向上と共にボランティアの喜び、地域の方々との繋がり等多くのことを学んでいます。



大牟田市立銀水小学校の実践

「めざせ、生きものはかせ」の学習を通して

銀水小学校では、身近な自然・環境など、「地域のひと・もの・こと」との関わりを通して、友達・家族・地域の方々などを大切に、心身ともに健康な子どもをめざしています。3年生では「めざせ、生きものはかせ」というテーマで、校庭の樹木や身近な植物や昆虫の観察、樹木の育ち方や特徴について、図鑑やインターネットで調べ学習を行いました。また、GTの柿川先生による「樹木教室」を行い、校庭にある樹木や草花、昆虫などを先生と一緒に見て回りながら話を聞いたり、木々の香りを楽しんだりして、たくさんの種類の木々に囲まれて生活していることを実感し驚きの声を上げていました。

さらに、森林のお話から川や海、環境にも触れ、食べ残しをしないなど、自分にできることをすることによって、環境を守る事の大切さも学びました。

今後も身近な生きものにますます関心を持ち、大切に過ごしてほしいと願っています。

